



日本共産党 並木幹男 議員

新型コロナウイルス感染症対策について

問

PCR検査の拡充について、日本のPCR検査は、人口比で世界159位です。検査数が少ないという状況です。大規模検査により、感染力の強い人を見つけ出し、隔離・保障することで、感染拡大を防いでいくべきだと考えます。PCR検査拡充の考えについて伺います。

答

保健福祉部長 現在、さんむ医療センターでは、さんむ医療センター医師および、かかりつけ医からPCR検査が必要と診断された方や、保健所により検査指示された方について、検体採取し検査機関に検査を依頼しているところです。今後については、さんむ医療センター内にPCR検査機器の設置を予定しています。このPCR検査機器は、検体採取から検査結果

に分かるまで、約2時間で確認できません。急患等に対しても、検査対応が可能なものと考えています。

問

県としてのPCR検査の体制拡充や、山武郡市としての、取り組み状況について伺います。

答

市長 市としては、感染拡大を防止し、住民の安心に資するよう、検査対象要件および検査体制の拡充を図り、検査対象者を拡大するよう、市長会を通じて、県へ要望しています。また、山武郡市町会では、検査環境の整備が予定されている東千葉メディアカールセンターに、PCR検査センターの開設について、要望しました。

自然災害対策について

問

水害対策のため、作田川の改修が行われていますが、早急な対策として、新殿内橋から上流部に向けて、源川合流部までの作田川河道の草木等の堆積物の除去が必要であると考えますが、計画の状況について伺います。

答

都市建設部長 作田川河道の草木等堆積物の除去の状況について、作田川を管理する県山武土木事務所へ確認したところ、防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策にて、作田川の河道掘削が実施されています。昨年度は、新殿内橋の下流432mを実施したと聞いており、市土木課にお

いても、現地を確認しています。

問

今後の改修工事の予定について伺います。

答

都市建設部長 本年度は、新設された緊急浚渫推進事業により、新殿内橋の上流部180mの工事を予定していると聞いています。

問

源川の調節池の管理状況について伺います。

答

都市建設部長 この調節池の維持管理についても、作田川と同様に県が管理しています。昨年の台風15号、19号等の大雨による被害を受けたことから、県へ浚渫等機能強化について、強く要望を重ねています。本年度事業については、県山武土木事務所に確認したところ、現在、源川調節池内周辺の伐木を実施しており、9月中旬には、現地作業を終了すると聞いています。

残土の埋立てによる地下水の水質の汚濁の防止に関する条例の改正について

問

残土埋立てに関する条例の改正案が今定例会において提出されています。改正内容について、改良土、これは再生土とも呼ばれていますが、この改良土による埋立てを規制するもので、住民からも要望されている改正だと思えます。今回の条例改正に至る経緯について伺います。

答

経済環境部長 再生土等による埋め立てについては、平成30年第3回定例会で、一般質問等にも取り上げられました。また、住民からも、地下水の保全、自然環境の維持として、再生土による埋め立てを規制する条例改正の要望書が、あがっています。

飲料水や生活用水を地下水に頼っている地域の、水質の安全を保持することと併せて、県条例の規制より、さらに厳しい規制となり、取り締まりの強化を図ります。なお、県内市町村での再生土による埋立てを規制する条例の整備状況については、県内50市町村のうち、15の団体が整備しています。



源川の調節池(8月3日撮影)

